

シニアのゲンキで マチが輝く!! 😊

◀◀少子高齢社会のなか、豊富な経験や技術をもつシニアの方々が、生涯を通じて仕事や地域活動、生涯学習・スポーツなど、さまざまな分野でイキイキと活躍できる社会（生涯現役社会）づくりが望まれ、今日特に「団塊世代」にスポットが当たっています。お元気なシニア・団塊世代がたくさんいらっしゃる事が、活気にあふれる地域社会となっていきます。そこで、お元気なシニア世代の方々に、シリーズでご登場いただきます。

■人との出会い

退職後のライフワークとして、自分が障害者であり、障害者を持つ親でもあり、福祉にかかわる仕事で得た知識や体験を誰かに伝えることによって、何かの役に立ててもらえるのではないかと考え、「福祉の語り部」(?) をすることとしました。

また、私のモットーは、「人との出会いを大切にし、お互いに話し合うこと」です。そのことが自分のためになり、自分を振り返ることもでき、成長できると考えています。

そのためには、退職後も話をする機会や場面をいかにつくったらいいかと考え、当面の手段として、いろいろな仕事に就いて、いろいろな人と会い、話がしたいと思って、18年4月の定年退職後に始めたことが、①社会福祉士事務所を設立し、福祉相談室の開設と成年後見事務に関係する仕事

②県の社協やNPO法人の嘱託で福祉サービス等に関係する仕事

③市役所の非常勤嘱託で介護保険に

関係する仕事
…などでした。

■何かできるはず

活動範囲は、県の東部中心ですが、いずれは、自分の住んでいる周南市旧熊毛地域を中心にしたいと考えています。

最初から旧熊毛地域としたかたのですが、転勤族であったため、地元で知人が少ないことと、勉強不足を補うために、今すぐにはできるところから始めたからです。その中でコンスタントに仕事があることを視野に入れた結果が現状ですが、自分で選んだ道でもあるので、忙しいけれど精神的には充実した毎日、歳を忘れていきます。



福祉の語り部となりたい。

社会福祉士・精神保健福祉士 **吉浦正男さん(61)**

Masao Yoshiura

ただし、定年後は、荒れ放題の家の周囲や庭の手入れ、少しばかりの畑や山の手入れなど、サラリーマン時代にはできなかったことをするであらうと期待していた妻には、申し訳ない気持ちと、今は黙って協力してくれている妻と娘に感謝しています。(面と向かって言ったことはありませんが・・・)

定年後2年目に入って、今も「人との出会いを大切にし、お互いに話し合うこと」を継続しています。

まだ、「福祉の語り部」となり得ていませんが、「何かができるはず」との思いを巡らせながら、毎日、岩国・周南・山口・柳井等々を飛び回っています。